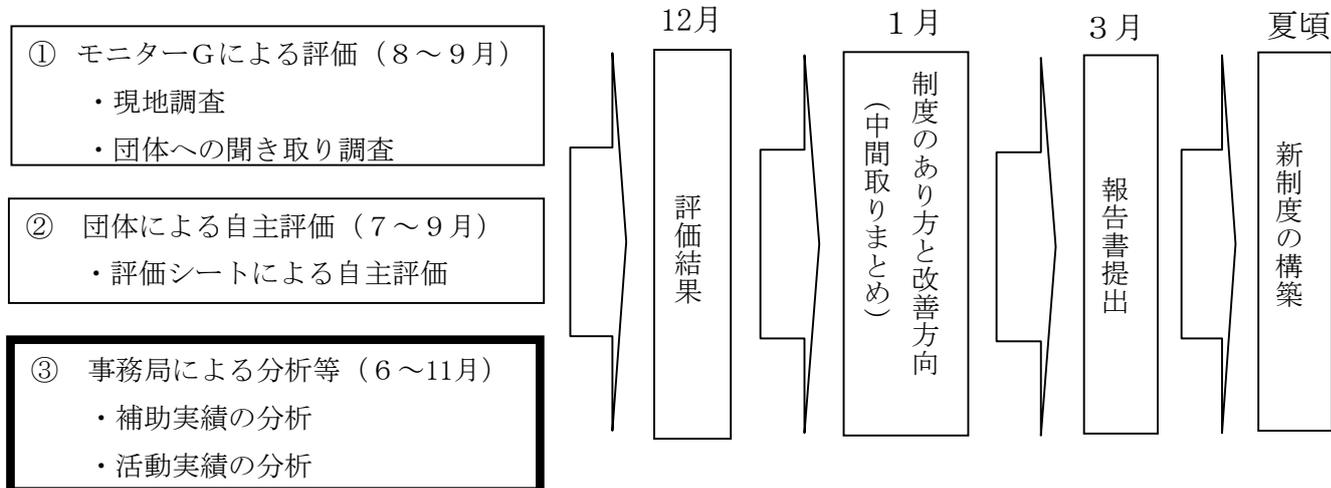


事務局による補助事業実績に基づく分析

1 評価の流れ



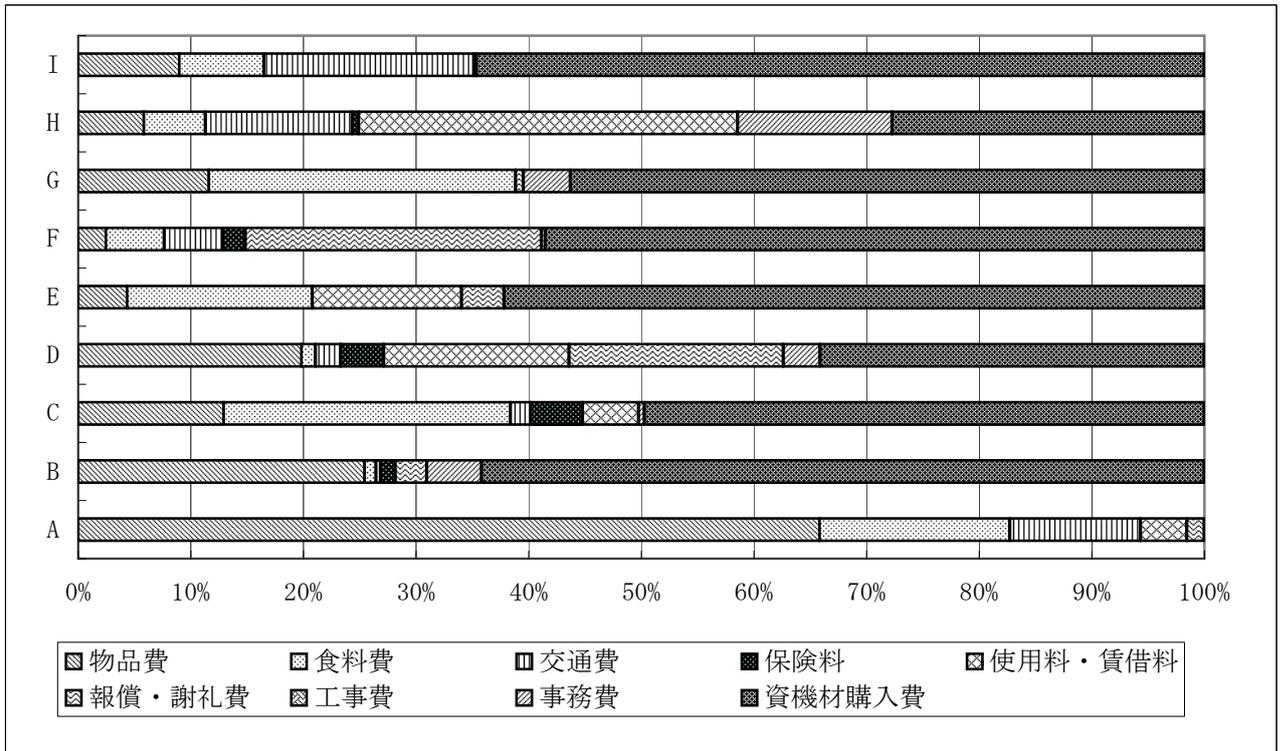
2 事務局による分析のねらい

- (1) 補助実績について
類似の活動を行っている団体の使用している経費を比較することにより、補助申請額の内容を検討する材料とする。
- (2) 活動実績について
継続団体については、項目ごとに数値の変遷を把握することで継続性があるか否か検討を行う。
- (3) 共通事項
類似の活動を行っている団体間の経費と実績を比較することで、事業採択の際の基準項目等の見直しについて検討を行う。

I 森林の保全・再生事業実績に基づく分析

1 補助実績に係る分析

(1) 各団体別の経費内訳



費目	内 容	内 訳
物品費	・鋏、鎌、鋸替刃等消耗器具 ・燃料費	・森林整備用物品（シュロ縄、針金、竹箒等）
食料費	・参加者弁当 ・飲み物代	
交通費	・電車代	
保険料	・グリーンボランティア保険 ・レクリエーション保険	
使用料・賃借料	・貸し切りバス ・炊き出し用プロパン	
報償・謝礼費	・炭焼き指導謝礼 ・ユンボ操縦謝礼 ・チェーンソー資格者謝礼	
事務費	・チラシ印刷作成費 ・クラブ通信発送費 ・チラシ発送費、 ・チェーンソー講習会参加費 ・写真代 ・郵送費	
資機材購入費	・チェーンソー ・安全带 ・刈払機 ・鉋、鎌、鋏	

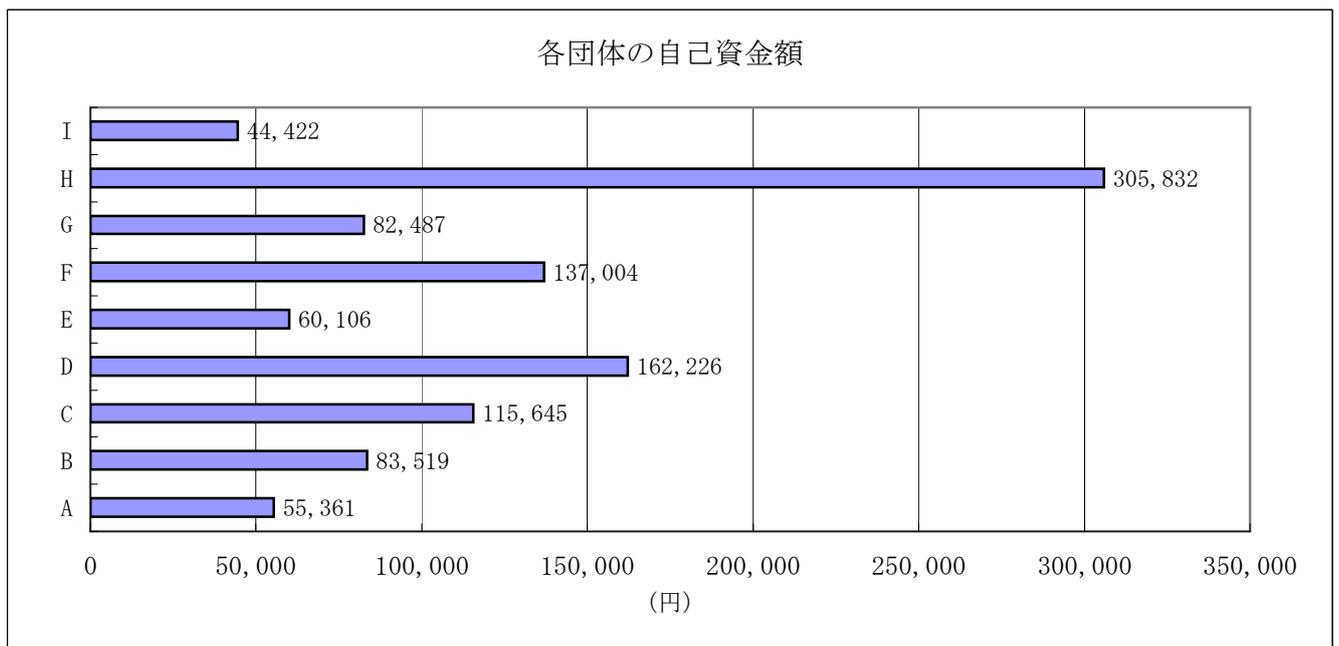
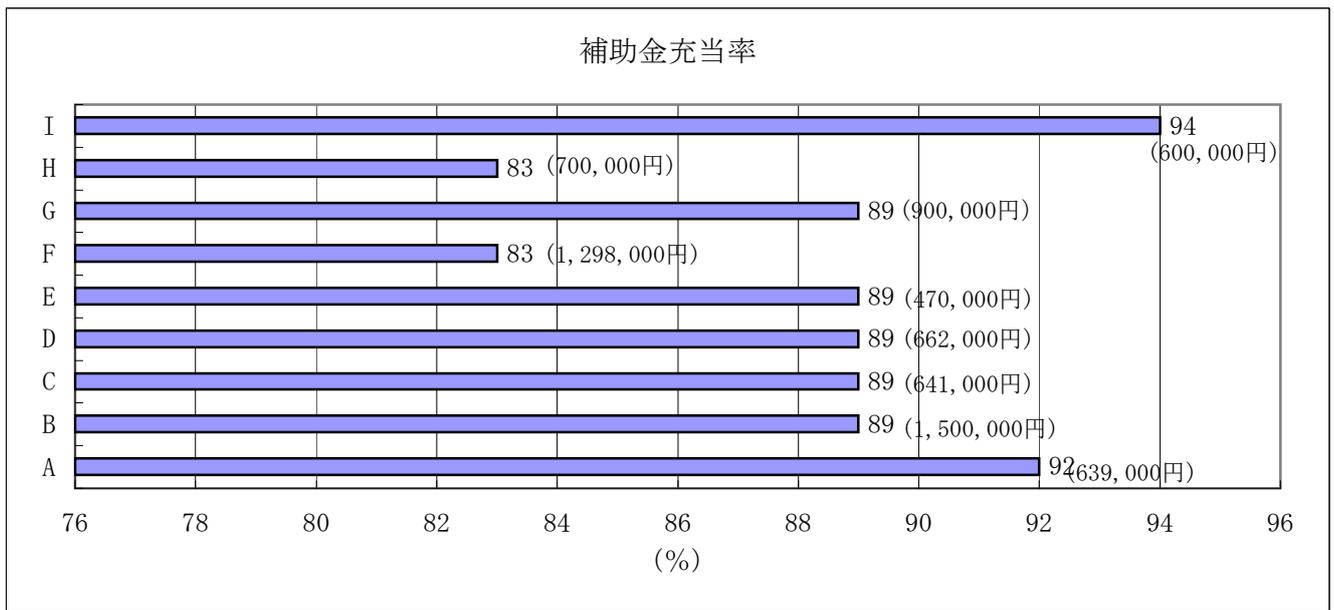
<分析概要>

- 資機材の購入をしていない1団体を除く、全ての団体において活動経費に占める資機材費の割合が一番高く、平均で43%となっている。
- また、要望の高い保険料については、補助対象となっているにもかかわらず、加入している団体は9団体中5団体となっている。

<事務局意見>

- 経費内訳は、各団体ごとにまちまちであるが、使用内容は概ね適正であり特に問題はないと考えられるが、保険については、全ての団体において加入を義務付けるなどの対応が必要。

(2) 各団体別の資金内訳



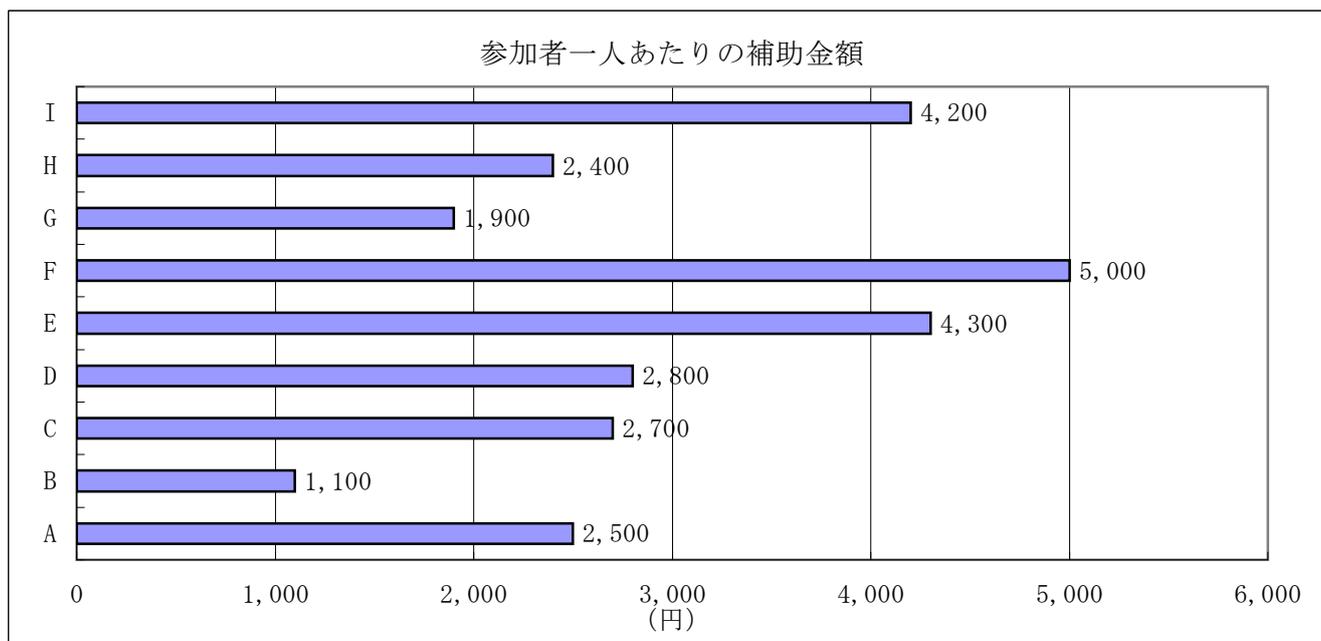
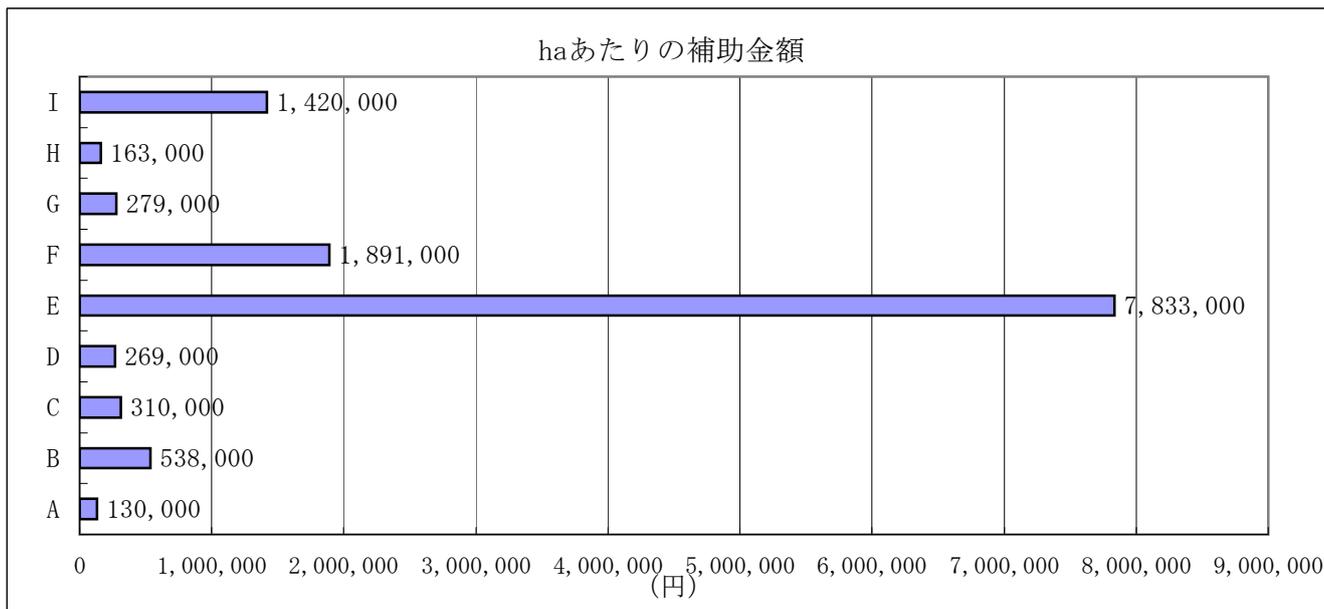
○

○

<事務局意見>

○

(3) 各団体別の補助金額の比較(費用対効果)



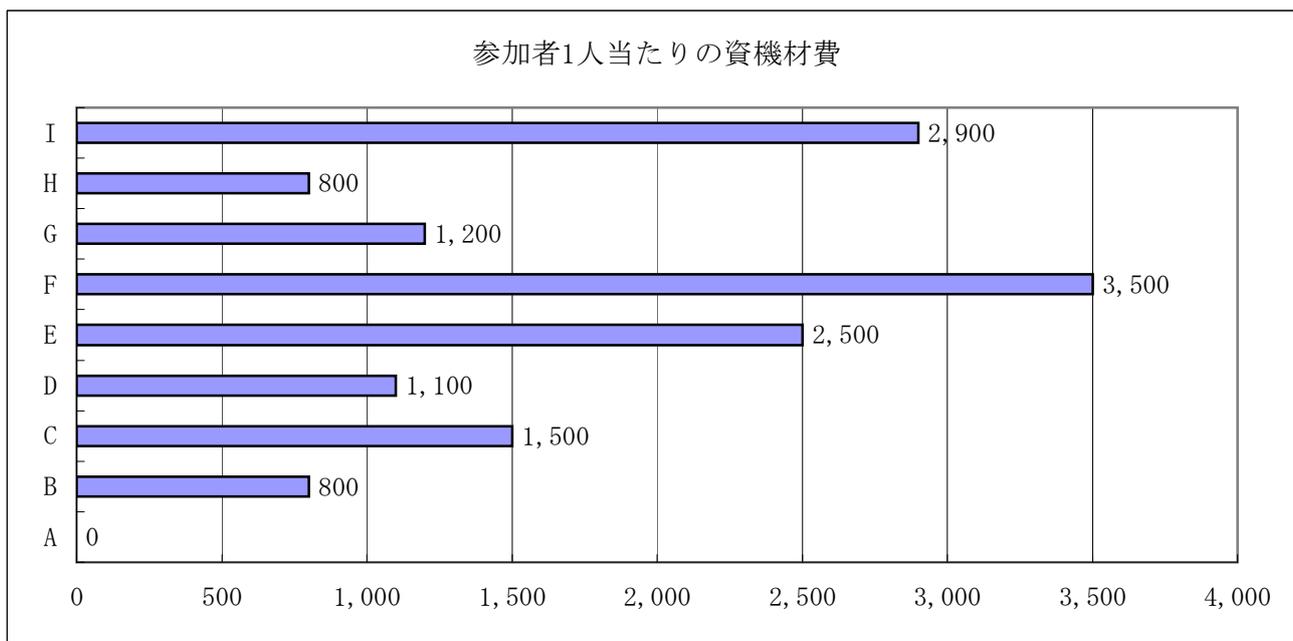
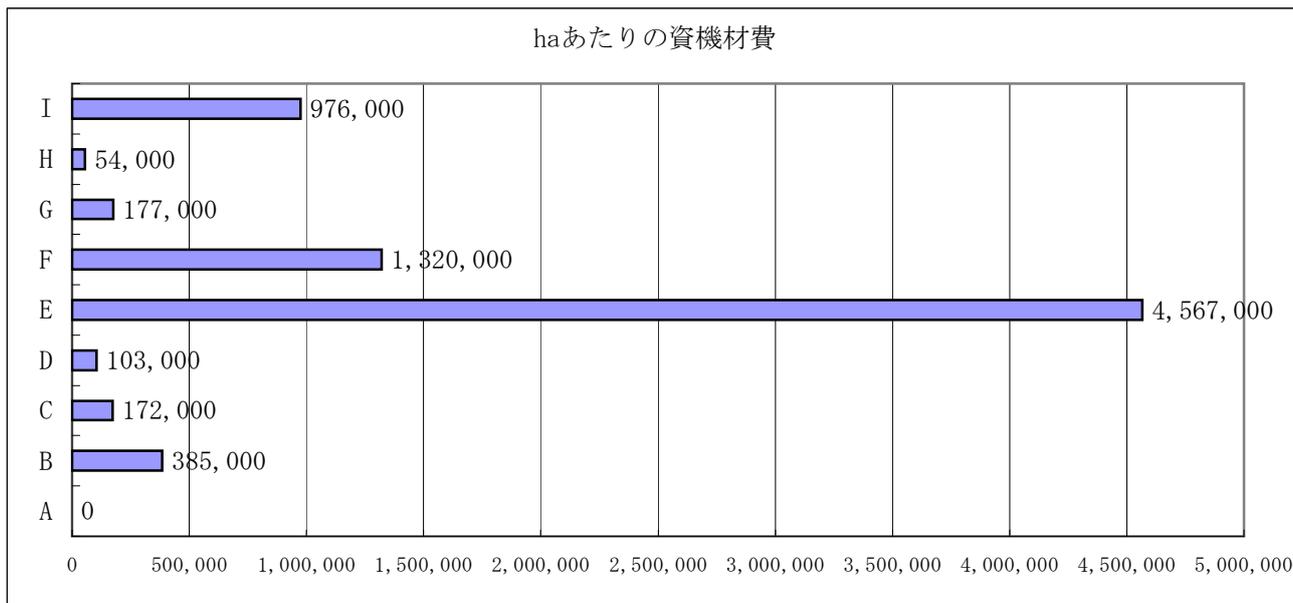
<分析概要>

- 各団体の活動面積(=整備面積)当たりの補助金額を比較したところ、最小単価と最大単価では約60倍の開きがあり、水源環境の保全・再生に寄与する活動として捉えた場合、過大補助と思われる団体がある。
- 一方、参加者一人当たりの補助金額で比較した場合では、最小単価と最大単価の開きは5倍程度で、最大でも5,000円と市民事業の活性化や新たな市民事業の発生・展開の視点からは、概ね妥当であると判断できる。
- なお、このような差異が生じた背景には、活動面積が極めて零細な団体(0.06ha)が含まれていたことによるものである。

<事務局意見>

- 活動面積が極めて小規模な場合には、年間の参加者数見込み等を確認し、参加者数一人当たりの補助金額についても高額となる場合には、優先順位を下げるもしくは不採択とするなど、制度の改善が必要。

(4) 各団体別の資機材費の比較（費用対効果）



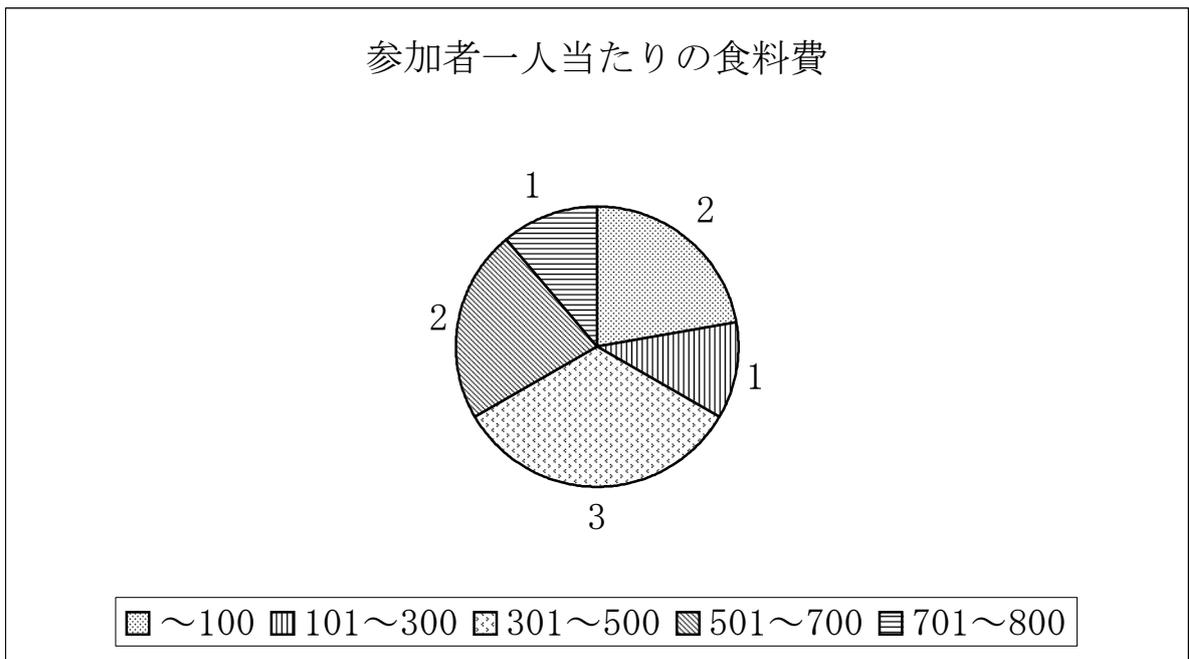
<分析概要>

- 各団体の活動面積（＝整備面積）当たりの資機材購入費を比較したところ、最小単価と最大単価では約85倍の開きがあり、水源環境の保全・再生に寄与する活動として捉えた場合、過大補助と思われる団体がある。
- 一方、参加者一人当たりの補助金額で比較した場合では、最小単価と最大単価の開きは4倍程度で、最大でも3,500円と市民事業の活性化や新たな市民事業の発生・展開の視点からは、概ね妥当であると判断できる。

<事務局意見>

- 活動面積が極めて小規模な場合には、年間の参加者数見込み等を確認し、参加者数一人当たりの資機材費用についても高額となる場合には、優先順位を下げるもしくは不採択とするなど、制度の改善が必要。

(5) 各団体別の食料費の比較



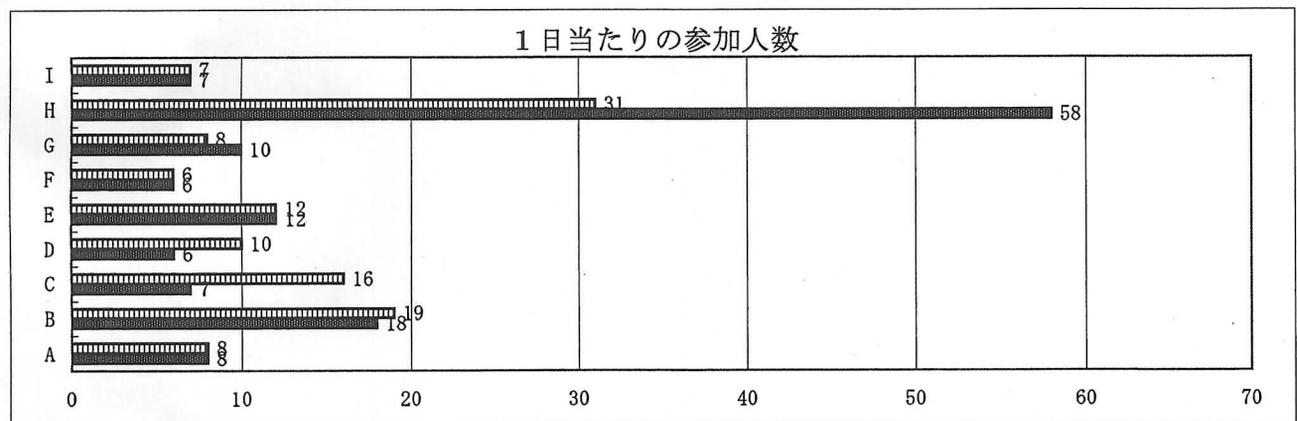
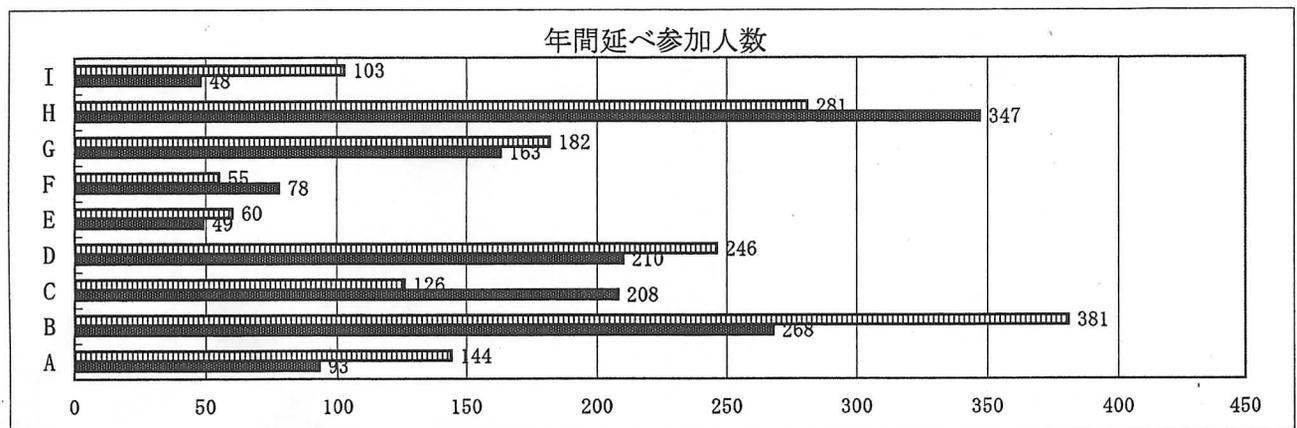
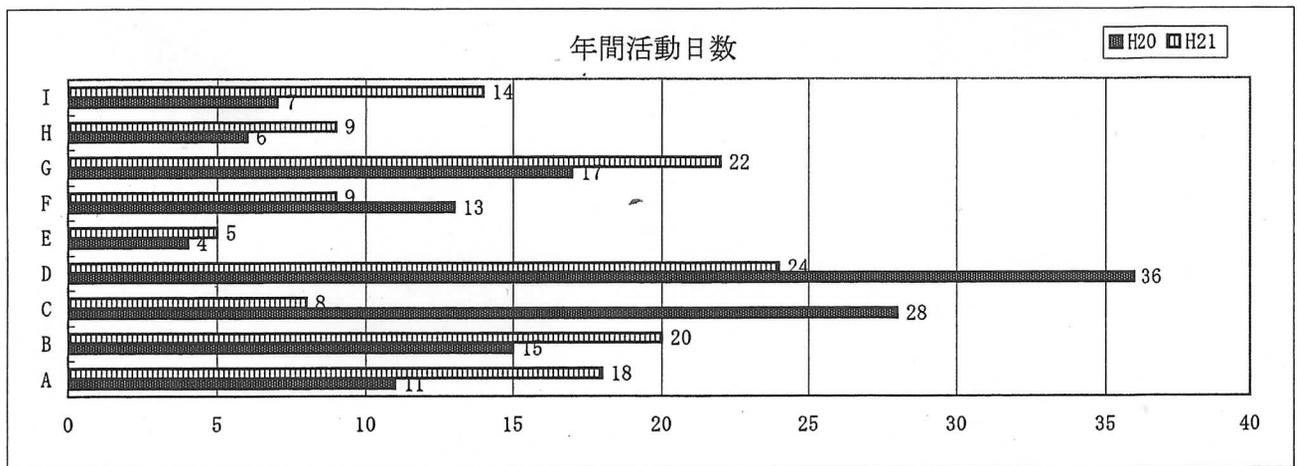
<分析概要>

- 各団体別の参加者一人当たりの食料費は、100円以下が2団体、最大でも800円となっている。

<事務局意見>

- ボランティアの食料費としては概ね妥当であると思われる。

2 活動実績に係る分析



<分析概要>

- 年間活動日数は、9団体中6団体で2年目に増加していたが、その一方で、活動日数が1/4近くまで大幅に減少した団体も見受けられた。
- 年間の延参加者数については、9団体中6団体で2年目の参加者数が増加しており、減少した団体についても活動日数ほどの大幅な減少は見られていない。
- なお、活動日数が増加したにもかかわらず延参加人数が減少した団体が1団体。一方、活動日数が減少したにもかかわらず延参加人数が増加した団体が1団体あった。
- 各団体における活動1日当たりの参加人数については、1団体大幅に減少した外は、おおむね同じか若干増加している状況であり、活動日数及び延参加者数とも前年を下回った団体Cでは、1回当たりの参加者数は倍増となっている。